

## Ⅸ 教育資料館

### 1. 理念目的

これまで教育資料館は、「わが国の近代『学制』発足以降における奈良県下の初等・中等教育に関する資料を中心として、江戸期の庶民教育に関する歴史的資料や、アジア、ヨーロッパなど国際的な教育資料の収集と整理、体系化を行うことともに、その成果を展示、公開することによって、学校教育はもとより、広く生涯学習の実践と研究に資することを理念としている。」の理念のもと、以下の目的を掲げてきた。

- a、奈良県下における義務教育史あるいは庶民教育史を多角的に分析、展望しうる場とすること。
- b、江戸時代の大和国の私塾・藩校、とりわけ吉野・山添など山村・僻地における教育事情について調査・研究の場とすること。
- c、教科書、各種教材教具等の歴史的意義や変遷などについて教育・研究すること。
- d、教員養成大学として本学が果たしてきた歴史的役割や意義を明らかにしていくこと。
- e、初等教育及び初等教育史に関する国際比較研究の場とすること。
- f、国際化していく社会変化の潮流のなかで、教育に対する新しい社会的要請に対応し得る教育体制、教育内容や教育方法に関する情報の収集及び発信と理論的、実践的研究の場とすること。
- g、生涯学習のための教育情報の収集と発信の拠点となること。

### 2. 現状

#### 1) 組織

館長（併任）

事務補佐員 1 名

#### 2) 施設・設備

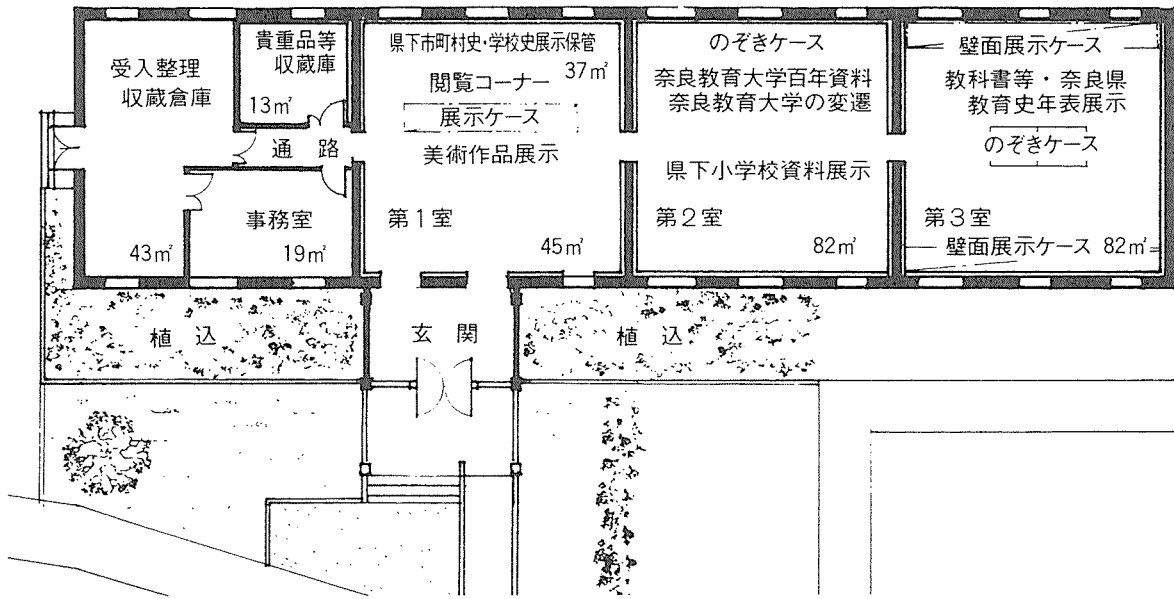
教育資料館の施設は、展示室（3室）、収蔵庫および事務室からなっている。展示室の展示資料、保管資料と各室の面積は下記のとおりである。

**第1室** 県下市町村史や学校史を展示、保管している。また、ホールには本学元教官からの寄贈による、絵画、彫刻、書などの美術作品を展示している。面積は45㎡。

**第2室** 奈良教育大学百年史関係資料および、教育資料、写真、年表等によって、奈良教育大学の変遷をわかりやすく展示しており、また、県下の小学校の資料展示コーナーを設置し、学制発足以降の教育資料、教材、教具、備品や、当時の教育状況を知る写真なども展示している。面積は82㎡。

**第3室** 学制発足以降、奈良県下で使用された教科書等の資料を中心に、往時の写真とともに、奈良県教育史年表を掲示している。面積は82㎡。

## 平面図



建物の構造 煉瓦造平家建 屋根日本瓦葺  
(玄関鉄骨造)

建物の面積 346㎡

### 3) 教育研究及びそれに関する諸活動

#### (1) 教育資料に関する情報提供体制の整備

- ・ 定期刊行物——「教育資料館だより」の年一回発刊体制、第7号まで発刊。
- ・ 教育資料館所蔵資料——現在16,000点所蔵。資料蒐集は基本的に小柴幸文氏の尽力により達成。これらの所蔵資料の公開は科学研究費補助金の助成をうけ（代表者：藤原公昭教授）所蔵資料データベースを作成した。また「奈良教育大学ホームページ」で全内容を公開した。また特色ある資料は画像公開を実現した。それらすべてをCD-ROM化し、2000年8月に学内の教員全員にCD-ROMを配布した。また情報提供サービスとして平成7～9年度（1995～1997年度）に教育資料館及び本学所蔵資料を紹介した「奈良教育大学教育資料館所蔵資料ビデオ」（第一集～第三集）三本を作成した。内容は第一集『奈良教育大学教育資料館の案内』、第二集『奈良県の作文教育』、第三集『大和地域の寺子屋の実態と往来物』である。

#### (2) 教育活動、研究環境の整備

[研究成果の公表]

- ① 増田信一「文集指導史の研究（1）」（『奈良教育大学教育研究所紀要』第30号 1994年3月）
- ② 梅村佳代「本学所蔵の往来物の研究（1）」（『奈良教育大学教育研究所紀要』第32号 1996年3月）、「本学所蔵の往来物の研究（Ⅱ）」（『奈良教育大学教育研究所紀要』第33号 1997年3月）、「本学所蔵の往来物の研究（Ⅲ）」（『奈良教育大学教育研究所紀要』第34号 1998年3月）、「本学所蔵の往来物・女筆

手本類の研究」(『奈良教育大学教育研究所紀要』第36号 2000年)、「本学所蔵の江戸時代和書の検討—往来物、地誌、随筆、書道などに関する和書を中心に—(『奈良教育大学紀要』第49巻1号 2000年)

#### [教育資料館データベースの作成]

科学研究費補助金(平成8~11年度、代表者:藤原公昭教授)の助成により、教育資料館資料のデータベースを作成し、全部をデジタル化してCD-ROMに収めた。それらを学内教職員に配布した。内容は本学所蔵の往来物48点の全頁画像公開と解説を付した。また赤井達郎前学長により平成10年度に新規購入された江戸時代の国書150点余の全冊全項の画像公開と解説を付した。さらに奈良町の墨製造者中山家により本学に寄贈された「陳玄堂浮世絵コレクション」145点の全面画像化と解説、「東大寺二月堂声明」の音声と収録リストも作成した。

また牧野英三名誉教授の研究成果である奈良県下の「わらべ歌」「労働歌」の音声も一部収録公開されている。

### (3) 資料の収集、整理体制の整備

#### [資料の収集]

- ・江戸時代の国書66点150冊余の収集。
- ・奈良市の中山家より、幕末から明治にかけての浮世絵145点の寄贈(陳玄堂コレクション)。
- ・奈良市の小川クニ子氏より『学習研究』200冊余寄贈。

#### [現有資料の早期整理]

所蔵資料16,000点のすべての整理を完了し、データベース化した。そして目録順序に照合して館内所蔵資料の配置も整備した。

#### [教育資料館の常設展示とテーマ別展示]

資料の展示をテーマごとに設定することは実現してきた。常設展示も適宜差し替えを行い、内容を刷新した。第2室はギャラリーとして開放し、教育資料館所蔵の教材・教具の展示、学内の教職員の教育・研究の成果の展示、本学の学生・院生の学習・研究成果の発表の空間として開放した。美術教育の学生が製作した奈良の世界遺産を写生した大仏の壁面上部展示、授業の成果である手作りの絵本の展示、墨絵による「二十歳の自叙伝絵巻」の展示、「紙芝居」展示を行った。

### (4) 教育資料館データベースとネットワークへの対応

#### [データベースの内容]

- ・初等中等教育諸学校に関するデータベース=所蔵資料リスト全文収録
- ・教科書及び往来物に関するデータベース=所蔵「往来物」解説と全項掲載、所蔵「女筆手本類」解説と全項掲載、所蔵「その他の歴史的文書」全文掲載
- ・教科教育関連資料に関するデータベース=「大和のうた」録音資料、戦後美術教育の軌跡と変遷
- ・各種文集、文献に関するデータベース=奈良師範学校附属小学校文集「わかくさ」
- ・人権教育関係資料に関するデータベース

- ・アジア・ヨーロッパ、アメリカ等の教材に関するデータベース
- ・教育関連の研究論文、卒業論文、修士論文等の題目に関するデータベース
- ・教育資料に関する画像データベース＝「奈良絵本画像データ」、図書館所蔵幕末・明治の浮世絵（陳玄堂浮世絵コレクション）

[データベースの検索システム]

- ・学内LANを活用し、オンラインの検索システムを整備した。動画像や音楽も利用可能にするという方針も実現した。

#### 4) 地域社会への寄与

[展示]

##### (1) 常設展示

- ・常設展示は第1室において県下の市町村史誌及び学校史の展示と保管、また赤井達郎前学長の寄贈になる展覧会図録コレクション（赤井文庫）を整備した。また本学教育の著作物などの研究成果、絵画、彫刻、書などの芸術作品等の展示を行い「本学教官の業績コーナー」とした。
- ・第2室には奈良教育大学百年史関係資料及び写真、年表等により、奈良師範学校から奈良学芸大学、奈良教育大学への変遷を展示している。また県下の小学校の資料展示コーナーを設置し、「学制」発足以後の教育資料、教材、教具、備品や当時の教育状況を知る写真などの展示。また美術の学生による手作り凧と手作り絵本、墨絵「二十歳の自叙伝絵巻」展示も行った。
- ・第3室は明治から戦後の教科書展示、学習・指導記録の展示、「紙芝居」展示。
- ・特筆すべきは平成6年度に文部省の国語教科調査官であった故渋谷宗光氏の遺族の寄贈による文献、資料200点余からなる「渋谷宗光文庫」、また付属小学校の元教官長田光男氏により寄贈された国語科と社会科を中心とする研究物と文集1,500点余、付属小学校元教官谷山清氏による生活綴方の実践記録、奈良県下の児童作文集『学びの園』など収蔵している。また赤井前学長寄贈による女筆や文字稽古を伝える浮世絵パネルの展示もある。

##### (2) 特別展示

特別展示は毎年一回、大学祭時に開催。特別展示のテーマは以下の通りである。

平成7年度（第一回）——「故上島一司教授作品展」

平成8年度（第二回）——「故久保田忠和教授遺作展」

第3室「奈良県下の学校、学級文集」展

平成9年度（第三回）——「書道科教室教官作品展・書道関係教科書展」

第3室「江戸時代の庶民教科書；往来物展」

平成10年度（第四回）——「原口勝海教授絵画作品展」

教科書展「戦時中及び戦後の教科書の変化」

（1940年代の国定教科書）

第2・3室「福島県安達郡本宮町本宮小学校の子どもの美術作品からみた戦後美術教育の軌跡と遷」

平成11年度（第五回）——「幕末・明治の浮世絵展」

平成12年度（第六回）——「捕鯨絵巻と浮世絵展」

#### [公開講座]

教育資料館は、広く市民へ所蔵資料の公開と市民啓発のため開館以来二回の公開講座を開催した。受講料が有料であったための影響もあり、参加数が少なかった。

内容は以下のとおりである。

平成8年度公開講座 読む、書く、調べる。・・・秋の夜長に！

11月2日 梅村佳代 「大和地域の寺子屋（手習塾）の実態と往来物」

11月9日 増田信一 「奈良県における文集指導史の研究」

11月16日 中川喜代子 「新しい人権教育キイ概念と資料・教材」

11月30日 赤井達郎 「おんなの読み書き」

同 上 小柴幸文 「教育資料の今むかし」

平成10年度公開講座 教育資料にみる今・昔—教育資料館の資料を活用する—

3月6日 藤原公昭 「パソコンとインターネットの操作と資料検索の実技」

同 上 梅村佳代 「本学所蔵往来物よりみた近世の子どもと学習」

同 上 増田信一 「戦後の文集からみた作文教育」

3月13日 小柴幸文、山本喜志雄 「戦前、戦後の教科書変遷について」

#### [特別講演会]

平成10年12月2日、山田ホールにおいて奈良市音声館の荒井淳子氏を迎え「音楽は心のかげはしーわらべうたと音楽療法—」のテーマで特別講演会を開催した。教職員及び一般市民の参加者120人。

#### [入館状況]

開館当時は年間2,000人台であったが、次第に来館者は減少した。特別展示の「幕末・明治の浮世絵」（平成11年度）は700人、「捕鯨絵巻と浮世絵」展は200人の入館者があった。入館者は奈良県下の小・中学校教職員、教育委員会関係者、文部省関係者、他大学教職員、一般市民などである。

### 3. 点検・評価と改善の方策

#### [点検・評価]

- ・第一に当初、かかげた理念・目的、課題に沿って多くの内容で達成された。特に、学内LANの活用による検索システムの確立と、インターネット接続により教育資料の国内、国外への公開が実現したことの意義は大きい。
- ・第二に教育資料館所蔵資料のデータベースの作成が完了し、CD-ROM化され、学内教職員に配布され、情報提供サービスが一段と進展をみた。
- ・第三に資料収集について篤志家の寄贈による貴重な資料が少なからず収集された。また目的意識的な収集も進展し貴重な資料の所蔵が実現した。
- ・第四に収集された16,000点の資料の整理は完了し、教育資料館個別の分析や研究も着手され、少しずつ進展をみた。

- ・第五に特別展示、「教育資料館だより」の発刊、常設展示など堅持された。活動の基礎は脆弱ながらも成立した。
- ・第六に手作りの絵本、手作り凧、手作り墨絵絵巻など、学生、院生、教職員の学習・教育活動・成果の発表の空間として活用されることが始まった。

#### [長所と問題点]

長所は16,000点の教育資料の収集、整理が実現し、データベース化され、ホームページに公開され、CD-ROM化されて学内、国内、国際社会に学術・教育情報として発信したことである。そのための体制も確立し、さらなる資料情報を提供できることとなった。

問題点は収集され、公開された教育資料情報をいかに活用するかの具体的な方策の検討が多面的に必要なにもかかわらず本格的な検討がなされていないことがある。また、資料館施設のギャラリーとしての開放も長期計画を行う必要がある。

第二に資料収集のための財政措置、長期方針などが必要であり、大学の将来展望と関連させて体制を整え、強化する必要がある。

#### [今後の課題]

- 一、教育資料館の管理運営体制の整備や専門的研究者スタッフの配置など削減政策のなかで困難が増すばかりであるが、教育資料館の充実とさらなる飛躍のためには資金とスタッフの充実は欠かせない。
- 一、生涯学習時代を迎え「成熟化する社会、変化する社会に対応するため、かつ増大しつつある市民の学習要求に積極的に対応し得るよう、自己教育力の基礎づくり、地域活動の活性化と交流の促進、自主的な学習活動への支援、学習機会の拡充、市民文化の創造と伝統文化の保存や振興など、生涯学習のための諸条件の整備を目指して、必要かつ適切な教育情報の収集と提供、学習機会の拡大などの役割を担うことである。」(奈良教育大学自己評価報告書『これまでこれから1995』)の内容が現実に必要とされる時期に至っている。学内の生涯学習推進委員会などの諸組織と連携して、本館所蔵資料及び資料館施設の積極的活用をさらに計画的におこなっていく必要がある。
- 一、教員養成に関する資料の収集も積極的に心掛け、奈良教育大学の将来を展望する上で教員養成大学関係資料、大学史資料及び教員養成に関する資料など現代史に関する諸資料の収集と保存、分析や活用など今日的課題に対応した活動も必要である。
- 一、情報教育、介護実習開始による介護や福祉関係、海外帰国生や現職教員教育、大学院関係も視野に含めて、資料の収集など目的の遂行に心掛ける必要がある。
- 一、本学における教育、研究の特色である「少人数教育」「理科離れ対策」「人権教育」「生活体験学習」「生涯学習」「国際理解教育」及び「総合的学習」などに関する教育資料、教育情報を積極的に収集する。
- 一、独自に資料購入予算を計画し、長期計画に基づいて特徴ある資料の収集に取り組む必要がある。
- 一、教育資料情報の提供、学術情報を発信して、地域への貢献を継続し、地域連携を強化する。